

# 河野太郎 衆議院議員 ホームページ

## (ごまめの歯ざしり ブログ版)

河野太郎 衆議院議員 (法務副大臣) のブログに「しんわろネッサンス」ご視察時のコメントが掲載されましたのでご紹介します。

自民党 衆議院議員 河野太郎最新情報 総裁選挙・臓器移植法改正など

1/2 ページ

The screenshot shows the official website of Kono Taro. The header includes the URL 'www.taro.org' and the site title 'Kono Taro Official Website'. Navigation links include '河野太郎ホームページ', 'メールマガジンのご登録', '河野太郎にメール', and 'サイト内検索'. A sidebar on the left lists 'SELECTContents' such as '最新情報 News', 'プロフィール Profile', '太郎の携帯絵日記 Taro's Photo Diary', '太郎の活動 Taro's Activities', 'ごまめの歯ざしり ブログ版 Mail Magazine NEW!!', and '国会攻勢本 Books'. The main content area features a news item with a photo of Kono Taro and the headline: '自民党総裁選に出馬する河野太郎の熱き思い... あなたは今の政治に本当に満足していますか? 年金問題、教育問題、そして政治改革 新しい日本を創る河野太郎の処方箋とは! 私が掲げる こんな 政権構想! どちらをクリック!!' Below the article is the URL 'http://www.taro.org/blog/index.php/archives/514' and the post date 'Posted by 河野 太郎 on 2006/7/13 木曜日'.

## 福祉的就労への支援

<http://www.taro.org/blog/index.php/archives/514>

Posted by 河野 太郎 on 2006/7/13 木曜日

ばばあ。

なあに。

おねがいがあるの。

パパ、何でも聞いて上げるよ。

あのね、こんどばばがてれびにでたらね、ぼくおおきなこえでばばってよぶからね、ばばぼくのほうむいてね。

うっ.....。(パパ絶体絶命)

アスペンのブレインストームでは日本がアメリカのレーダースクリーンから消えているという危機感を感じたが、それはアメリカだけの話ではない、なんとお隣の韓国からも日本が消えつつあるという本が出た。しかも、その本(「脱日する韓国」澤田克己著)を読むとなんとなくつじつまが合う。韓国や中国のことを感情的に取り上げた本は多いが、これは読んでうーんと考えさせられる本だ。日本を冷静に外から見つめ直すことが必要だ。

ホンダの部品の組み立てをしている授産施設「しんわろネッサンス」を見学させて頂く。ホンダの支援の下、しんわろネッサンスでは、ホンダのアコードのキャニスタをはじめ、いろいろな自動車部品の組み立て加工を行っている(かつて私も自動車部品産業の経験をしたことがあるが、あの自動車の品質要求をクリアしているのだ)。しんわろネッサンス福祉工場では、最低賃金が適用される(月給約12万円)雇用者が17名、そしてしんわろネッサンス社会就労センター(通所授産施設)では、平均月額工賃五万五千円で70名が働いている。授産施設の平均月額工賃が一万円程度であることを考えると、このホンダ・しんわろネッサンス連合は非常に良質な仕事を障害者に発注し、障害者たちがそれをやり遂げているということに感銘する。

この施設の関係者から鋭い指摘が出された。

日本の障害者福祉は、企業の雇用を前提として、法定雇用率やその他の制度ができてはいるが、現実には養護学校を卒業しても企業に就職できる者は1%程度に過ぎない。しかし、それ以外の大多数の障害者が身を寄せる授産施設などの「福祉的就労」は非常な貧困状態におかれている。この福祉的就労の部分を改善していくことが急務なのではないか。

(→ 裏面P. 2へ)

例えば、しんわルネサンスでは、ホンダの協力により、最低賃金が適用される雇用が17名生まれ、その他に授産施設の平均賃金を5倍近く上回る賃金を払える雇用が70名確保されている。しかし、現状は、発注先に生まれたこれらの雇用はホンダの法定雇用率には一切計上されないのである。知的障害者や精神障害者にとって本格的な雇用がハードルが高いならば、授産施設の平均工賃をいかにして高くすることができるかを考えなければならない。そのためには、授産施設に良質な業務を発注しようという企業の後押しをするような仕組みを作る必要があるという主張には、耳を傾けるべきだろう。

雇用と非雇用(福祉的就労)の格差を少しでも埋めるような努力が必要だ。

しんわルネサンスでもホンダの本社でも、その他の日本の製造業でも品質管理ということに関しては、同じような感覚があるだろう。つまり、欠陥ができればその原因を徹底的に追及し、欠陥を出さないような体制を作る。

僕も富士ゼロックスでは入社後じつに半年間研修所に缶詰になって品質管理の考え方をたたき込まれた。

それに対して役所は、出した欠陥が大したことがないと言い張るためにどうするか考える。本来は、欠陥が大きい小さいかが問題なのではなく、欠陥が出たことが問題であるはずなのに。

法務省でも同じようなことがある。法務省には裁判所からも人がきているが、やっぱり反応は役人的だ。裁判官になるような人が、欠陥を出したということに対して、日本の製造業に携わっている大部分の人間とまったく違う感覚でいることは問題だ。裁判員制度が始まれば、裁判官のこうした感覚も明るみに出てしまう。裁判官が製造業に人事交流で出たりする仕組みも必要なのではないだろうか。

■ ページの先頭へ

東京都千代田区永田町2丁目1番地2号 衆議院会館 206号室

■ 事務所のご案内

■ サイトマップ

■ クレジット

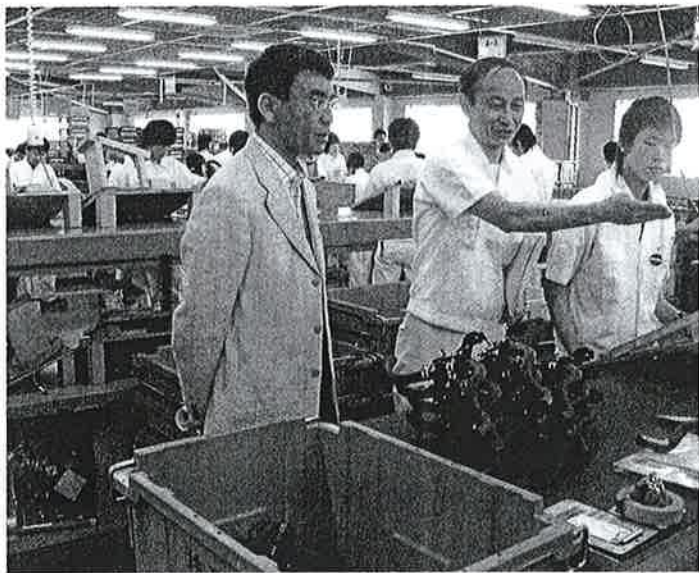
■ お問い合わせ

Japanese | English | Chinese | Korean

(C)Copyright 2004 河野太郎 All Rights Reserved.

2006年(平成18年)7月21日(金曜日) 湘南ホームジャーナル

# 河野代議士が 福祉工場視察



福祉工場を視察し職員より説明を受ける河野副大臣

河野太郎法務副大臣は7月13日(木)、平塚市上吉沢の社会福祉法人進和学園(出組明理事長の知的障害者福祉工場と授産施設である「しんわルネサンス」を訪れた。

当日は同工場の作業場を視察すると共に、同所で働く人たちの家族で構成する「進和会」のメンバーからこの4月に一部施行された「障害者

自立支援法」の見直し等についての陳情を受けた。

同施設は3月6日にオープン。「障害者自立支援法」の施行に伴う福祉サービスの拡充を目的に「雇用型」と「非雇用型」の施設を併設している。特に雇用型の工場としては県内で2番目に設立された。

副大臣は約90人の障害者

がそれぞれのセクションでテキパキと作業をする姿に感心の面持ちであった。さらにこの工場からキャニスターやウオーターバルブなど、23モデルの部品が、年間111万個も本田技研工業(株)に納品され、不具合の発生率もゼロに近いことを聞き、さらに驚いた様子であった。

工場視察のあとは同工場でホンダの部品加工授産事業の管理を受けもつ営業窓口会社である「研進」のスタッフと会合。全国に知的障害者のための福祉工場をさらに多く設置できるようにバックアップしてほしいとの提言を受けた。

進和会の人たちからは、障害者自立支援法の施行により苦しくなった障害者の所得対策にともなう「福祉的就労」の底上げ策と、身体障害者とは異なる障害程度区分の見直しなど問題点についての意見交換と陳情を受けた。

河野氏も「法が施行されたが実際ふたを開けてみるとギャップも出ている。社会保険費の中でどう扱うか、少し研究させていたきたい」と答えた。